

9月3日 基本的教育と識字率向上月間・ローリーの友月間

基本的教育と識字率向上月間について。

国際ローリーは1986年(昭和61年)世界運動として識字率向上を重要課題に採択し9月度を強調月間として推進しています。また、ローリー財団の6つの重点分野の中にも「識字率の向上」が明記されています。この運動はユネスコ協会と連携して行っています。日本の識字率は、数百年に亘って世界一を誇るといわれています。江戸時代の幕末期においては武士はほぼ100%読み書きができたという。庶民層でも男子で約半分は読み書きができたと言われています。現在の世界の人口は、約73億2,500万人ですが増え続けています。しかし世界では、7,500万人の子どもたちが学校に通えず現在成人の5人に1人にあたる7億7,600万人の人々は読み書きができないと言われておりその3分の2は女性です。読み書きができないと、意思や要求を書面で伝えられず社会的な権利が大幅に制約されます。本人ばかりでなく国や地域の発展にとっても不利益になります。アフリカの国々は全体的に識字率が低く約30%アジアを見てもアフリカ28%とても低くなっています。アジア全体でも約60%です。IT産業の発展著しいインドでさえ、66.0%です。

文字が読めない理由

国によって教育予算が少なく授業料が無料ではない国が多くあります。貧困家庭の子どもたちや孤児は学費を払えず学用品を買うお金がない家計を助けるために働かなくてはならない。また、学校の教育の質が低い「学校に通わせる意味がない」と親が考え通わせないケースもあります。近くに学校がないから交通手段が発達していない地域でもっとも近い学校が何十キロも離れている雨季に道路が冠水し通学そのものが困難な状況も多々あります。「女の子は学校に通う必要がない」といわれる。途上国では、男の子の教育にお金を使う傾向があります。女の子は学校へ通えたとしても学校で性的嫌がらせを受ける女子用トイレがない、早すぎる結婚、女性教員が少ない、などの理由で学校へ通わなくなってしまう。先生の人数が足りないから教員の多くは一般的な公務員より安い賃金で働き病欠中の賃金や年金などの保証もないため教員の無断欠勤や人数の減少がおきています。

家で話す言葉と学校で教わる言葉が違う

少数民族が通う場所への学校建設を後回しにする国もあります。少数民族の言語での授業を認めない現地語を理解する教師が不足している勉強についていけない生徒は自然と学校から離れて行きます。

グアテマラではグローバル補助金を利用して9つの公立小学校を支援しました。南アフリカ、カダ、米国のローリークラブがグローバル補助金で職業研修チームを南アフリカに派遣し教員研修とカリキュラム開発を支援しました。研修カリキュラムは最終的に南アフリカ文部省による認定を受け現在は国内全土に導入されています。

我宇部ローリークラブも本日ローリー財団の地区補助金を使い西岐波の特定非営利活動法人「ぐうですぐう」さんに農業倉庫の贈呈式を行います。3年連続地区補助金、次はグローバル補助金を申請していければと思います。本日は識字率向上についてお話ししました。